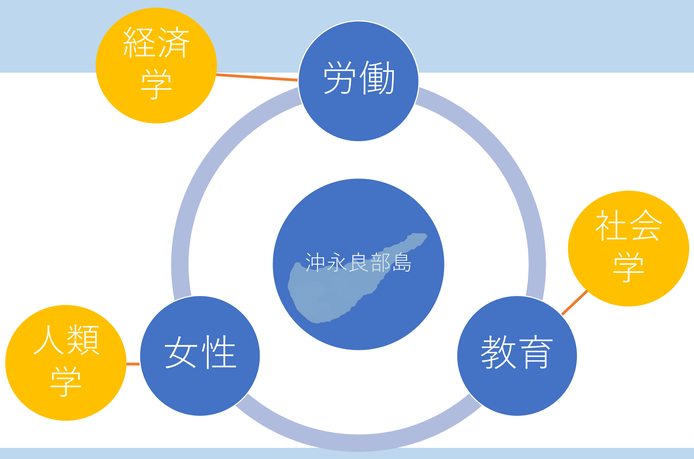
「近代から現代に繋がる沖永良部島の社会経済、教育に関する調査・資料収集」

西村知・中谷純江・日髙優介

はじめに

本研究は、近代から現代までの沖永良部島において、グローバル経済と島民がどのような関係性を構築してきたか、その過程で、女性や家族、地域共同体がどのように変容したか、教育とこれらの社会経済の変化にはどのような関係性があったのかという課題について、文献収集、聞き取り調査に基づきながら、経済学、人類学、社会学、教育学の観点から明らかにする。鹿児島の離島の近代から現代の歴史を、より深く理解し、現代の離島における諸課題を解決するためのアイデアを提案する。



労働

「沖永良部島における外国人労働をめぐる現状」

研究代表者：
西村知（鹿児島大学）

共同研究者：
ニシムラ・ジョアン（鹿児島大学）
スリット・アロンドラ（フィリピンポリテクニック大学）
日髙優介（鹿児島大学）

沖永良部島は、鹿児島県では外国人受け入れの先進地！

表 沖永良部島、鹿児島市、鹿児島県、全国の外国人人口（2020年10月）

	人口	外国人人口	人口1000人当たりの外国人人口
沖永良部島	11,996	169	14.1
和泊町	**6,246**	**109**	**17.5**
知名町	5,750	60	10.4
鹿児島市	593,128	3,304	5.6
鹿児島県	1,601,711	12,416	7.8
全国	126,146,099	2,747,137	21.8

出所：2020年国勢調査

① 鹿児島県の外国人人口の割合は全国平均に比べると著しく低い。
＊人口1,000人当たり、全国は、21.8人、鹿児島県は、7.8人
② 県庁所在地の鹿児島市は、特に低い。
＊5.6人
③ 沖永良部島、特に和泊町は、鹿児島県の平均を大きく上回っている。
＊沖永良部島: 14.1人、和泊町17.5人

沖永良部島の外国人の中心は、ベトナム人、フィリピン人

表 沖永良部島における外国人居住者の出身国（2020年12月）

	ベトナム	フィリピン	中国	その他	合計
沖永良部島	79	64	13	13	169
和泊町	**71**	**21**	**12**	**5**	**109**
知名町	8	43	1	8	60

出所：法務省出入国在留管理局

ベトナム人：ほぼ技能実習生
（就労制限あり）
フィリピン人：島民男性の配偶者
多くが永住権を持つ。
（就労制限なし）
＊島レベルで見ると、和泊町にベトナム人・中国人、知名町にフィリピン人の構図。

ベトナム人技能実習を巡る問題

2018年11月19日に、withnews（朝日新聞系のオンラインニュース）で、多くの技能実習生が、違法に、島外に仕事を求めて、逃げていく現状が紹介される。

若い島民よって、ベトナム人技能実習生と島民とのコミュニケーションを密にすることによって、実習生にとって、住みやすい、働きやすい環境を作る努力が行われている。

春節テト交流会

ライター水嶋氏による「GINO-T」の開発

古着を実習生に提供するイベント

フィリピン人島民の労働・ビジネスの特徴

ディスカルテ（フィリピノ語）
英語のdiscard、カードを切るという意味。
人間関係、生計活動における戦略という意味。

人間関係をうまく構築しながら生計活動。
具体的な現象形態が、**生業複合、ディアスポラビジネス**。

＜生業複合＞
多様な職種に就労し生計活動を行うこと。
様々な人々との付き合いを通じて、職を得、職に必要な複数の技能を身に着ける。
結果的に、島での労働不足解消に貢献。

＜ディアスポラビジネスの例：Bさん＞
①島レベル：
島に住むフィリピン人にフィリピン料理の仕出し
②全国レベル：関東を中心に、キャッサバ、パパイヤ、シンカマス（クズイモ）などを販売
③全国レベル：
フィリピンの航空券・送金ネットビジネスの下請け

女性

「近現代エラブ社会における女性の行為主体性（エイジェンシー）」

研究代表　中谷純江（鹿児島大学）
研究協力　大脇裕美（チアリップル）

沖永良部の社会構造の特徴

1. 階層的社会（シュータ層の存在）
2. 双系的社会（一族の地位が島妻に由来）

・グスク・シュータ
北山王 x 島の女性（ノロ） ＝世の主 (宗)
首里の役人 x 島の女性 （橋口・新城・豊枝・豊口・上城・甲）
薩摩役人 x 宗の女性 （K家）= 東の宗, 昇り宗

・ワドマイ/アカタジ・シュータ
薩摩役人 x 島の女性 （土持・操・町田・沖・陽・龍・・・）

3. 支配層の変化
伝統的支配（土地）と近代的支配（役職）
→安定的な主人とヤトゥイの関係

アングシャリ

K家女性のライフヒストリー調査

	誕生年	出身集落	教育歴
祖母(UM)	1877 (M10)	内城（農家）	小学校？
母（SA）	1923 (T12)	和泊（教育一家）	青年学校
本人(MI)	1948 (S23)	内城（公務員＋農業）	大学

城シュータ K家の墓の調査

上：宗家の始祖 世の主の墓
右：同じ敷地にある K家の墓 (家紋は父方の島津家のもの)

（UM）
橋口の美人娘＋持参財（土地） → K家へ
孫(長女）に上に立つ者の振る舞い方を教える
・汚い仕事をしてはいけない
・別膳で食事（鯨・豚赤身、ジェリービーンズ）
農業経営に采配
・和泊文化への蔑視（トイレ掃除を叱責）

（SA）
3姉妹と 4 兄弟の二女。一人一人の子に子守りがつき、不自由なく育つ。
父親が亡くなり、小学校の後、上の学校へは行かせてもらえなかった。→教育への強い思い
和泊（教育一家）からK家（農家）に嫁ぐ
牛と豚を飼うなど、丈夫な身体で農家に適応。
紬で仕送りをし、子ども全員（５女１男）を大学へ
美しい字、詩をよみ、作詞も。

（MI）
５女１男の長女、祖母に可愛がられて育つ
27歳　家を尼崎に購入し、弟を呼び寄せ高校へ行かせる
31歳　妹が出産する家の購入を支援
33歳　仕事をやめて独立、ビル（店舗住宅）購入
37歳　妹の仕事さがし、塾の経営へ
42歳　義弟やパートナーをビジネスに巻き込む
43歳　両親を尼崎に呼び寄せ
50歳　故郷に自宅（錦をかざる）、塾経営

エイジェンシーとは？

歴史的・社会的約と関係性の中での選択

↔ 近代的自己・個人による選択
↔ 女性開放、女性の自己決定権

■ UME の生き方
農家経営の采配を握る、専業主婦文化への軽蔑、血統への誇りとその継承

■ SAの生き方
野良仕事への適応、自分の稼ぎで子供に教育

■ MIの生き方
性別役割を超えた活躍。「長子役割」に生きる。
家族を支え、家族を発展させることに自己充足

＊エラブは、女性がエイジェンシーを行使する空間が広い

教育

「『教育の島』言説と医師の輩出状況」

研究代表者：
日髙優介（鹿児島大学）

共同研究者：
西村知（鹿児島大学）
澤田成章（鹿児島大学）

「教育の島」という言説と2つの職業

沖永良部出身70代男性
「中学校から鹿児島に移り住んだのは進学するため。**沖永良部は『教育の島』だから，**親父は俺たち兄弟を教師にしたかった」
本部廣哲（南京都学園創設者）
「（学園を創設したのは）**教育の島に生まれたから**です」
玉起寿芳（沖永良部教育研究会会長，和泊小学校長）
「わたしたちのこの沖永良部島は昔から**教育に熱心な島**として注目されて参りました」

教師 → 多くの文献で言及されるコレを示す調査も存在
医師 → 口頭Lvでの認識アリ 具体的な状況は不明

紳士録，国勢調査から確認

昭和26年＋28年

島	人口	出身医師数	出身医師/人口	人口10万人あたり数	
奄美大島	107,904	48	0.044%	44.5	
喜界島	18,352	12	0.065%	65.4	
徳之島	53,333	11	0.021%	20.6	
沖永良部	28,309	21	0.074%	74.2	1位
与論	8,141	2	0.025%	24.6	
合計	216,039	94	0.043%	43.5	
日本	89,275,529			105.9	

行政区	人口	出身医師数	出身医師/人口	人口10万人あたり数	行政区	人口	出身医師数	出身医師/人口	人口10万人あたり数
名瀬市	28,973	16	1位 0.055%	55.2	喜界町	10,999	5	0.045%	45.5
三方村	9,759	0	0.000%	0.0	早町村	7,353	7	0.095%	95.2
大和村	6,373	1	0.016%	15.7	亀津町	12,438	7	0.056%	56.3
宇検村	7,615	1	0.013%	13.1	東天城村	10,139	1	0.010%	9.9
西方村	4,227	0	0.000%	0.0	天城村	13,043	0	0.000%	0.0
実久村	5,322	4	0.075%	75.2	伊仙村	17,713	3	0.017%	16.9
鎮西村	7,355	2	0.027%	27.2	和泊町	13,260	15	2位 0.113%	113.1
古仁屋町	11,987	5	0.042%	41.7	知名町	15,049	6	0.040%	39.9
住用村	4,490	2	0.045%	44.5	与論村	8,141	2	0.025%	24.6
龍郷村	9,703	10	0.103%	103.1	合計	216,039	94	0.043%	43.5
笠利村	12,100	7	0.058%	57.9	日本	89,275,529			105.9

島別の確認では，沖永良部島の比率が最も多い
市町村別では和泊町の比率が最も多い
（日本の平均を大きく上回る）

増加

昭和51年

島	人口	出身医師数	出身医師/人口	人口10万人あたり数	
奄美大島	85,171	38	0.045%	44.6	
喜界島	11,464	6	0.052%	52.3	
徳之島	35,391	13	0.037%	36.7	
沖永良部	16,882	26	0.154%	154.0	1位
与論	6,971	2	0.029%	28.7	
合計	155,879	85	0.055%	54.5	
日本	111,939,643			118.4	

行政区	人口	出身医師数	出身医師/人口	人口10万人あたり数	行政区	人口	出身医師数	出身医師/人口	人口10万人あたり数
名瀬市	46335	10	0.022%	21.6	喜界町	11464	6	0.052%	52.3
大和村	2733	1	0.037%	36.6	徳之島町	15215	7	0.046%	46.0
宇検村	2671	0	0.000%	0.0	天城町	9153	1	0.011%	10.9
瀬戸内町	15290	12	2位 0.078%	78.5	伊仙町	11023	5	0.045%	45.4
住用村	2591	1	0.039%	38.6	和泊町	8615	18	1位 0.209%	208.9
龍郷町	6220	5	0.080%	80.4	知名町	8267	8	0.097%	96.8
笠利町	9331	9	0.096%	96.5	与論町	6971	2	0.029%	28.7
					合計	155879	85	0.055%	54.5
					日本	111,939,643			118.4

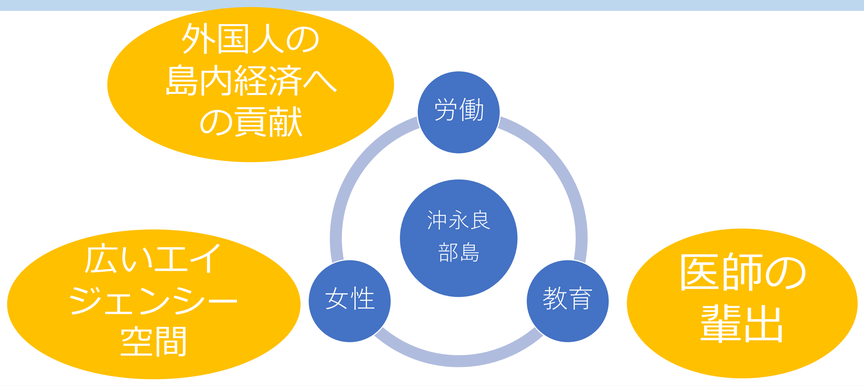
島別の確認では，沖永良部島の比率が最も多い
（日本の平均を大きく上回る）
市町村別では和泊町(1位）知名町（2位）

医出の島

今後の課題
①医出要因の探究
②現在の状況の確認
③教育との関係の探究

おわりに

沖永良部島の島民に関する調査、資料収集によって、以下の点が明らかになった。この島においては、外国人居住者の島内経済への貢献が特に大きいこと、女性がエイジェンシー（行為主体性）を行使する空間が広いこと、多くの医師を輩出してきたことである。離島、地方の社会経済振興に関して、多様な主体が活躍する沖永良部島から学ぶべきことは多いと考えられる。今後の研究課題は、この沖永良部島の特徴が、近代から現在まで、どのように形成されてきかたかを明らかにすることである。



謝辞：本研究に際し、沖永良部島の方々に多大な協力をいただきました。本来ならば個別にお礼を申し上げるべきではありますが、個人情報保護の観点などからお許しください。この場を借りて深くお礼申し上げます。
本研究は鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センターの「令和4年度地域マネジメント教育研究プロジェクト」の助成により研究が遂行されたものです。